

大崎市立古川西中学校 閉校式 校長挨拶

本日、令和5年2月25日、大崎市立古川西中学校閉校式に際し、大崎市長 伊藤 康志 様、教育長 熊野 充利 様、教育委員 堀 智恵子 様にお出でいただきました。ありがとうございました。また、来賓として市議会議員 鹿野 良太 様、古川西中学校閉校準備委員会委員長 本田 幸一 様を始め、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

令和2年3月初旬の全国一斉臨時休校措置から3年、紆余曲折がありましたが、大崎市初の義務教育学校を開校するに当たり、本校前校長 長沼 宗則 様を始め、保護者、地域、関係機関の皆様の御尽力により、諸準備が整えられてきましたことにも感謝申し上げます。

さて、本校は昭和50年4月、旧志田中学校、旧東大崎中学校、旧高倉中学校が統合して開校しました。開校時の生徒数は491名、学級数は13、教職員数は29名でした。

開校から48年間、昭和、平成、令和という時代と共に歩みを進め、卒業生及び在校生総数は5,045名を数え、多数の有為な人材を輩出し古川西部地区及び大崎市の発展に大きく貢献してきたことは、地域の皆様の誇りでもあります。

改めて開校当時の資料を手にするると、3中学校の統合にあたり、各校、地域、保護者の代表が何度も話し合いを重ねたことが分かります。

大きな課題の一つに、校舎建設予定地の選定があり、第1次案は志田踏切北東でしたが、最終的には現在の場所での建設に至ったとあり、開校までの道のりが平坦ではなかったことが垣間見えます。

また、開校から3年間は生徒会目標を「友情と団結」とし運動会、文化祭のテーマも「友情と団結」に統一されたことから、生徒、保護者、地域、学校が一つになって新設校を作り上げていこうとする意気込みが感じられます。

さらに、校歌の一節「われら新鮮新鮮(フレッシュ、フレッシュ)」は、時代にふさわしい新たな学校作りを象徴するもので、建学の精神の一つとして、歌い継がれて参りました。

この「われら フレッシュ・フレッシュ」は、この4月開校の古川西小中学校校歌として歌い継がれる

ことになり、本校の歴史と伝統は、皆様一人一人の思い出に刻まれると共に、新設校においても継承・発展されることと期待しています。

この度の閉校は、学校教育法改正による新たな教育の方向性を具現化する「義務教育学校」の創設を受けたものであります。

本校が古川西小中学校に生まれ変わっても「真理を求めて集う、学びを求めて集う」学校として、「前に向かって歩く、未来に向かって歩く」、志高い児童生徒を育成する、理想の学び舎として、地域の皆様とともに、より質の高い教育活動を推進していくことと願っております。

結びに、地域や保護者の皆様には、特に今年度、運動会や文化祭において閉校記念行事として特別の取組をしていただき、生徒一人一人に西中生としての誇りと大きな思い出をプレゼントしていただきましたことに感謝申し上げます。

また、この後行われる閉校記念セレモニーを始め、閉校記念誌作成、閉校記念品の準備をしていただきました、閉校準備委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

この一年、コロナ禍に加え、様々な制約の中での教育活動にも関わらず「凡事徹底」を旨とし、古川西中学校最後の在校生としての自覚を持ち続け、「有終の美」を飾った生徒会長・結城和美さん、千葉南弥さんを始め、全ての生徒に讃辞を送り閉校式の挨拶とします。

令和5年2月25日

大崎市立古川西中学校 校長 笹川清治